



本日はお忙しい中、株式会社オプトランの2020年12月期第2四半期決算説明会にご参加いただき、ありがとうございます。代表取締役社長の林為平でございます。

2020年上半期は新型コロナウイルス拡大の長期化の影響で、厳しいビジネス環境でした。

2019年前半6か月と2020年6か月対比で申し上げますと、売上高では、全体としては、減少となりました。北米スマートフォンメーカー関連売上高が、2020年前半には、ほぼ0となったことを勘案しますと、その他の顧客関連では健闘したと思います。スマートフォンは北米メーカーの受注分が、昨年で売上計上を完了し、2020年初から、再び受注獲得の時期となったため、売上高は減少しました。また、中国系スマートフォン関連は、相応の売上高となりましたが、新型コロナの影響を受けざるを得ませんでした。

カメラレンズは中国系監視カメラメーカーの設備投資抑制の影響が出て、落ち込みました。

他方で、明るい話題としてはIoT関連売上高が増加し、とりわけ多様化が進んでいることが挙げられます。自動車・生体認証・半導体・医療用機器・AR/VR・光通信の全分野で売上を計上し、光学薄膜の応用分野の拡大を明確に示す結果となりました。とりわけ、光通信は5G対応として、2020年第2四半期で、新型光通信用装置の受注・売上を記録しました。

また、LEDについても、着実に新型DBR・TCO膜装置の売り上げを計上いたしました。

受注面では6か月対比で、前年より約9億円増加し、受注残高でも2020年6月末では、2019年6月末比で42億円増の、347億円となりました。とりわけ、新型装置の受注額に占める比率は41%となり、大きく実績を挙げました。スマートフォン用新型スパッタ装置、両面スパッタ装置、LED関連装置、新たに受注を獲得した新型ALD装置、さらに5G関

連で光通信用装置等を新たに受注しております。

新型コロナの鎮静化が見通せず、厳しい事業環境でございますが、研究開発型企业として、新たな技術開発を加速化し、市場ニーズの獲得を目指し、努力してまいります。さらに、装置製造での効率生産に徹し、部材調達コストの削減にも努めてまいります。

引き続きご支援・ご鞭撻をよろしくお願いいたします。



2020年12月期 第2四半期決算の概要

- 決算ハイライト (2020・2Q累計)
- 売上高 (2020・2Q累計)
- 受注高・受注残高 (2020・2Q累計)
- 営業利益 (2020・2Q累計)
- 売上高 (2020・2Q)
- 受注高・受注残高 (2020・2Q)
- 営業利益 (2020・2Q)
- 財務の状況
- CFの状況
- 業績見通し

決算ハイライト（2020・2Q累計）



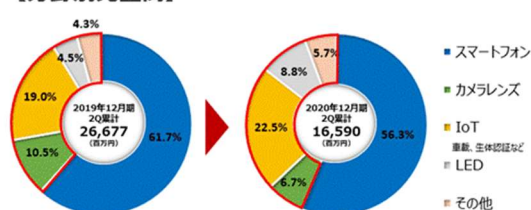
- 売上高は、前年同期比減。前年で北米スマートフォンメーカー売上が完了し、2020年は受注期となったことが主因。中華系は善戦したが、新型コロナの影響を受けた。
- カメラレンズは、一般的な設備投資抑制の動きに影響を受けた。
- 米国IT企業の新型ALD実験装置の受注に成功。
- IoT分野（車載・生体認証・半導体・医療機器・AR/VR、光通信）では生体認証（スマホ）以外の全てで増加。広角レンズ・ミニLED等の新技術への成膜ニーズにも対応。
- バイオセンサー分野での研究開発加速化。国内大学との共同開発推進。
- LEDも新型装置が実績を挙げた。
- 新型装置受注比率41%、売上比率15% 新型装置の比率が大きくアップ。
- 受注は、前年同期比で、2020年は+9億円（5%）。受注残+42億円。

【業績比較】

(百万円)

	2019年12月期 2Q累計	2020年12月期 2Q累計	前年同期比
売上高	26,677	16,590	△37.8%
営業利益	7,396	3,652	△50.6%
(営業利益率)	(27.7%)	(22.0%)	—
経常利益	7,262	3,952	△45.6%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	5,994	2,884	△51.9%
研究開発費	1,478	1,710	15.7%

【分野別売上高】



2

取締役専務執行役員の高橋です。それではこれから、2020年度の第2四半期決算につきましてご説明申し上げます。

決算ハイライトですが、2020年12月期第2四半期累計では、前年度より100億円ほど売り上げが落ちています。したがって利益も半減以下ということになっています。2020年になりまして、北米スマートフォンメーカー、重要顧客ですが、売上が昨年前半でほぼ完了しています。したがって、昨年後半から2020年前半は、当社は受注の時期になり、その分売上がほとんどゼロになっています。この影響が一番大きくて、ほぼ6カ月対比での売上減については、これで説明がつくということです。

中国系スマホメーカーについては、健闘はいたしましたけれども、コロナの影響が若干出たということになりました。

それから3行目で、米国IT企業の新型ALD実験装置の受注に成功。これは当社がここ数年開発を加速してきたALD装置が、やっと正式受注いたしました。これにつきましては、複数社が当社と交渉してまして、今後当社の主力装置になっていくものと期待をしています。

それから、とりわけ第2四半期に関しましては、IoT分野でさまざまな受注、それから売上が記録できました。これが大きな特徴です。車載、生体認証、半導体、医療機器、AR、VR、そして光通信です。生体認証以外では、全てで売上は増加しています。今後、広角レンズやミニLEDという新技術への成膜ニーズ、これは難しい技術ですが、こういうものが必要となりますので、当社の出番だということが言えると思います。

それからバイオセンサーも新たな分野として、当社はすでに1年以上前からこの分野で開発を行おうと準備を進めてまいりました。今般、国内の複数大学との共同開発を立ち上げており、研究開発を加速しています。これも新しい動きです。

それから下から2行目の新型装置の受注比率は、社長からもご説明しましたが41%、それから売上比率では15%と、かなりの比率が計上できるようになってきています。したがって、繰り返しになりますが、受注は6カ月対比で前年と比べて9億円増、受注残でも42億円増ということになっています。

売上高（2020・2Q累計）



<2Q累計売上高>

- 売上の5割が蒸着装置、4割がスパッタ装置。
- スマートフォンでは、筐体バックガラス（加飾膜）・カメラモジュール向けの売上確保。
- カメラレンズは、監視カメラ・一眼レフカメラ等向けの売上。
- IoT分野の比率アップ。多様化が進むが、とりわけ光通信用新型装置及び医療用X線FPDシンチレータ真空成膜装置は売上が好調。
- LED分野では、LEDチップ向け売上好調。
- その他の新型装置全体では、水平スパッタ・両面スパッタ・LED用装置・車載用スパッタ装置等、多様な新製品の受注・売上が実現し始めた。

3

売上高にまいります。第2四半期累計で、165億円となります。1年前に比べて100億円ほど落ちています。特徴としては、先ほど申しあげましたようにIoT分野の比率が高くなっていて、とりわけここに書いてあるように、光通信用新型装置については、かなりの売上の実績を上げることができるようになりました。

それから新分野として、具体的にはここに表示してありますように医療用X線FPDシンチレータ真空成膜装置。これは新型コロナにも関係しておりまして、胸部X線を撮るために特に画像をクリアにするということで、当社の成膜技術が使われているということです。これは2019年から開発、受注活動を始めていますけれども、当期、来期もかなり出てくるのではないかと期待をしています。

最後のところに記載がありますが、新型成膜装置では水平スパッタ、両面スパッタ、LED用装置、車載用スパッタ装置等、当社がここ数年で次々と新型装置の開発に注力をしてまいりまして、相応の研究開発費も計上していますが、これがやっと試験的にお客さまが導入する時期から、本格的な大量生産のための大規模な装置の導入に入りつつある、やっとそういう時期にやっとなってきました。今年度、来年度以降は、この新型装置が比率を高くするものと思っています。

受注高・受注残高（2020・2Q累計）



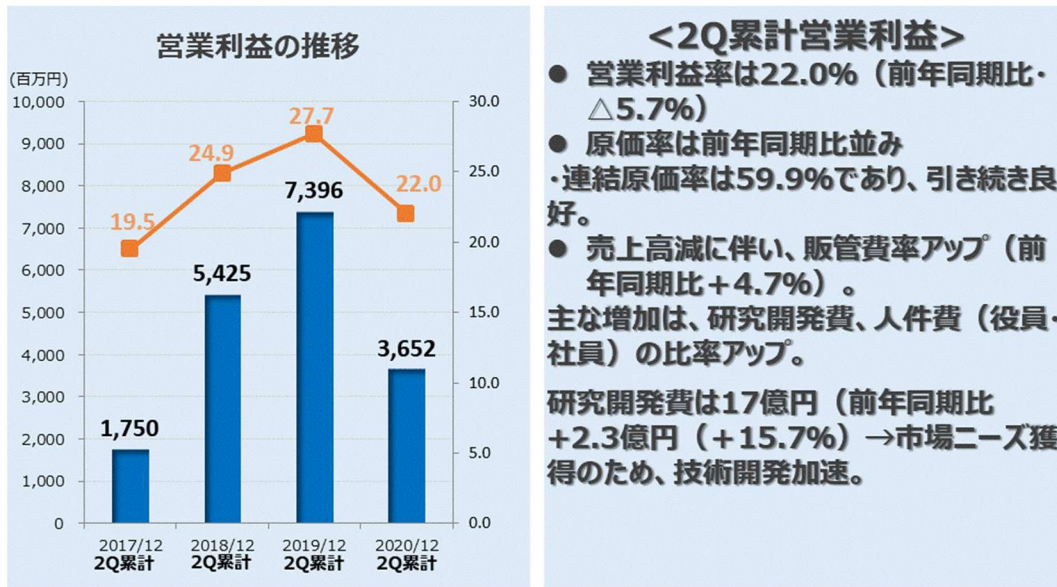
<2Q累計受注高>

- 前年同期比、+9億円（+5%）
- 受注構成は蒸着装置5割、スパッタ装置4割。
- スマートフォンでは、カメラモジュールの高機能化・ガラス筐体への加飾膜・3Dカメラ向けの受注好調
- IoT（車載・生体認証・半導体・医療用機器・光通信・AR/VR等）は受注多様化が進行。特に、光通信向けは新型装置への顧客の関心は強く、受注が本格化。新型ALD装置の受注獲得。
- LED分野でも受注堅調。

4

次のページにまいりまして受注高、受注残高です。数値につきましては、すでにご説明しました第2四半期累計、残高で347億円、6カ月間では188億円と前年同期比でいずれもプラスになっています。受注の特徴としましては、繰り返しになりますがスマートフォン、カメラレンズ、とりわけIoTです。ここに記載があるような新しい装置、光通信、ALDも含めて各種の新型装置の受注が増えています。受注残高は、例えば第2四半期でいきますと41%に当たるということで、かなりの比率になってきています。

営業利益（2020・2Q累計）

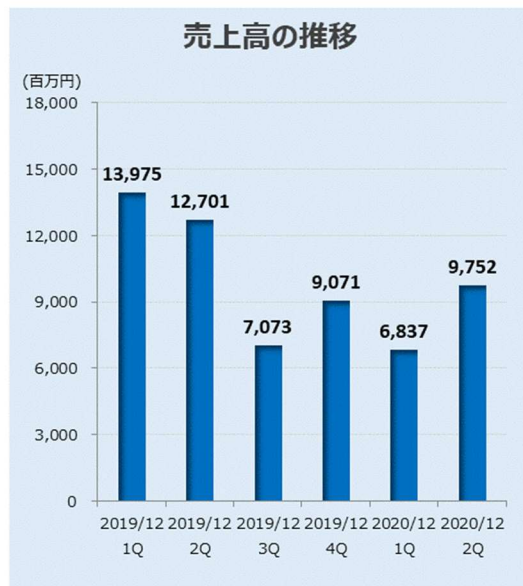


5

次に営業利益です。営業利益率は22%と、前年同期比では下がっています。売上高がかなり減っていますので、販管费率がアップして4.7%となっており、ほぼこの営業利益率の減少を説明できる要因になっています。主な販管费率の中では、研究開発費や人件費は、売上が減れば当然比率がアップしますので、その影響が出たということです。

1点、研究開発費についてはご注目いただきたいのですが、当社は、今年は売上が減ってはいますが、研究開発型企業として研究開発に注力するということは、変わらない会社の方針です。したがって、この上期で17億円の支出をしています。年間33億円でスタートしていますが、その半分以上を上期で費用を計上しています。売上高の減少にかかわらず、当社の新型装置、新しい技術への研究開発の加速という方針は変わりません。

売上高（2020・2Q）



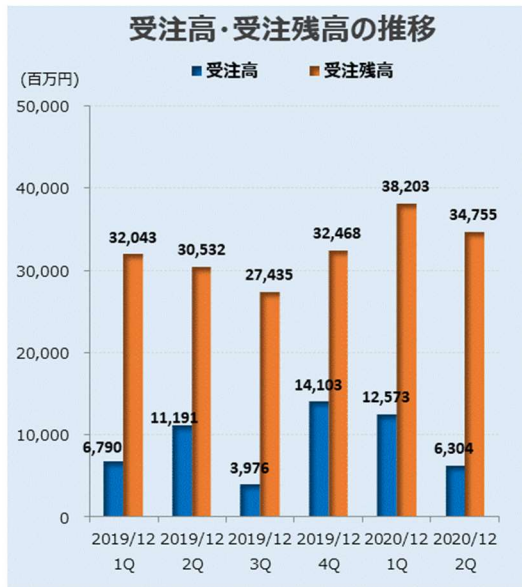
<2Q売上高> 第1四半期比42%増、売上の5割が蒸着装置、4割がスパッタ装置。

- スマートフォンでは、筐体バックガラス（加飾膜）・カメラ関連（IRカットフィルター・バックガラス面成膜）の売上堅調。
- カメラレンズでは、IRカットフィルターや車載用カメラモジュール等で売上確保。
- IoT分野では、車載・生体認証・半導体・AR/VRで売上堅調、光通信向け、医療用も好調
- LED分野も堅調。

6

次に売上高です。第2四半期累計売上高は97億52百万円と、第1四半期に比べれば売上高は増えました。これは当社自身の評価としましては、当初想定をしていました売上高、これはすでにご説明をしていますが、そもそも下期重点型で、上期が少なく下期が多いということで、当初計画を作ってスタートしました。その計面对比ではやや少ないという感じで、当社自身としては、特に第2四半期の売上高について意外感はありません。スマートフォン、カメラレンズ、IoT関連は、いずれもここに表示してありますように売上を計上しています。

受注高・受注残高（2020・2Q）



<2Q受注高>

世界経済動向の影響顕著。第1四半期比▲50%。ただし、年初からの6か月対比では+5%。

- 中華系スマートフォンメーカーからの受注確保。
- IoT関連は堅調、とりわけ光通信・車載・生体認証・AR/VR・医療用機器で受注実績確保。
- 新型装置では光通信向け装置の受注が好調。ALD装置も初の受注獲得。その他の新型で、LED、車載、水平パツタ、両面パツタ装置等でも受注確保。

7

次のページにまいりまして、第2四半期の受注高、受注残高です。第2四半期は第1四半期に比べますと、50%マイナスということになっています。ただ繰り返して申し上げますように、6か月対比でいくと前年よりも増えているということになっています。内容としては、中華系スマートフォンメーカーからの受注もあります。これはコロナの影響はあったことは確かなのですが、受注はありました。それからIoT関連、新型装置、ここに記載がありますように多方面で受注が取れ始めているということです。

そういう意味では、2020年度前半というのは、当社がここのところ注力をしてきた新しい技術、それから新型装置の開発が、やっと受注につながり始めたという時期です。他方、北米スマートフォンメーカーも受注の時期ということになりますので、売上の減少は減りましたが、受注として今後新しい受注が取れる芽が出てきていると言えると思います。

営業利益（2020・2Q）



<2Q営業利益>

- 営業利益率は20.9%
- 原価率は前四半期+3.5%
スパッタ装置売上比率減少が影響
- 販管費は17億円（販管費率
△0.8%）。

8

次に2020年度第2四半期の営業利益です。営業利益率は20.9%ということで、第1四半期に比べますと落ちています。これは、原価率が3.5%上がりましたので、それでほぼ説明ができます。この原価率上昇につきましては、スパッタ装置では、主力装置については原価率は下がっています。ただ第2四半期についてはごく少数の台数なのですが、実験的に装置を作ったものがあります。これについて原価率がかなり高かったことがあり、全体のスパッタの原価率を上げてしまったのですが、一番台数が売れている主力装置については、着実に原価率が下がっています。

それから蒸着装置については、コロナの影響もありましてなかなか市場環境が厳しいということで、とりわけ価格の安い装置について、他社との競争の都合上価格を抑えたということがありました。それがこの第2四半期については原価率のアップにつながりました。しかしながら、スパッタと蒸着装置両方につきまして、年度で全体の原価率が58.9%で想定をして動いていますが、これを構成するスパッタ装置と蒸着装置の個別の原価率の目標に対比すると、いずれも第2四半期でもこの原価率がそれより低い状況にあります。したがって、年度の原価率58.9%の達成という観点では、特に第2四半期の原価率アップ、営業利益率ダウンが、ネガティブではないということは申し上げておきたいと思えます。

財務の状況



(百万円)

	2019年12月末		2020年6月末		増減額
	金額	構成比	金額	構成比	
流動資産	47,193	83.5%	47,472	83.3%	278
現金・預金	26,969	47.7%	24,520	43.0%	△2,449
受取手形・売掛金	4,252	7.5%	4,107	7.2%	△145
棚卸資産	15,173	26.9%	17,894	31.4%	+2,720
貸倒引当金	△350	△0.6%	△347	△0.6%	+2
その他	1,148	2.0%	1,298	2.3%	+150
固定資産	9,315	16.5%	9,501	16.7%	+186
資産合計	56,509	100.0%	56,974	100.0%	+464
流動負債	19,825	35.1%	20,496	36.0%	+670
支払手形・買掛金	2,735	4.8%	4,166	7.3%	+1,431
短期有利子負債	510	0.9%	487	0.9%	△22
未払法人税	545	1.0%	1,059	1.9%	+514
前受金	13,988	24.8%	12,846	22.5%	△1,142
その他	2,046	3.6%	1,936	3.4%	△110
固定負債	1,864	3.3%	1,865	3.3%	+0
長期有利子負債	165	0.3%	121	0.2%	△43
その他	1,699	3.0%	1,743	3.1%	+44
負債合計	21,689	38.4%	22,361	39.2%	+671
純資産合計	34,819	61.6%	34,612	60.8%	△206
負債純資産合計	56,509	100.0%	56,974	100.0%	+464

・配当金支払いにより、現金・預金が減少

・出荷増により棚卸資産増加

・売上計上により、前受金が減少

次に財務の状況です。表示されているとおりですが、配当金支払いにより現金が減少し、棚卸資産が増加をしています。出荷が増えましたので増加しています。それから負債サイドで前受金、これは売り上げを計上しましたので前受金は減っています。

CFの状況



(百万円)

	2019年12月期 2Q累計 金額	2020年12月期2Q累計		主な要因
		金額	増減額	
営業活動によるCF	14,232	695	△13,537	たな卸資産増加による
投資活動によるCF	△1,079	△461	618	有形固定資産の取得による
財務活動によるCF	△2,389	△2,529	△140	配当金支払いによる
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△414	△154	260	
現金及び現金同等物の増減額	10,348	△2,449	△12,797	
現金及び現金同等物の期首残高	15,740	26,969	11,229	
現金及び現金同等物の期末残高	26,089	24,520	△1,569	

10

次にキャッシュフローの状況ですが、記載のとおりです。結局一番下の行で表示をしていますが、現金および現金同等物の期末残高は15億円ほど減りまして、第2四半期末では245億20百万円になっています。当社に関しては、新型コロナウイルスの影響による市場の低迷にかかわらず、手元流動性については全く問題ありません。

業績見通し



- 新型コロナウイルス感染症拡大により、当社グループ事業への影響が生じております。世界経済の停滞に起因し、設備投資を抑制する動きが見られ、足元では受注活動が停滞しております。
- 他方、汎用光学薄膜需要は回復傾向が強まっており、時間の経過とともに、当社の扱う最難度光学薄膜需要にもつながると思われれます。
- 今後の事業の見通しをつけるためには、しばらくの時間を要しますので、現在、公表している業績見通しは維持することといたします。今後の事業環境や業績動向を踏まえ、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示いたします。

(百万円)

	2019年12月期 実績	2020年12月期 予想	前期比
売上高	42,822	46,200	+7.9%
営業利益	10,879	12,000	+10.3%
(営業利益率)	(25.4%)	(26.0%)	—
経常利益	11,031	12,000	+8.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,101	9,200	+1.1%
研究開発費	3,172	3,300	+4.0%

11

最後に業績見通しです。業績見通しは据え置きとさせていただきます。読み上げますが、新型コロナウイルス感染症拡大により、当社グループ事業への影響が生じております。世界経済の停滞に起因し、設備投資を抑制する動きがみられ、足元では受注活動が停滞しております。他方、汎用光学薄膜需要は回復傾向が強まっており、時間の経過とともに、当社の扱う最難度光学薄膜需要にもつながると思われれます。今後の事業の見通しをつけるためには、しばらくの時間を要しますので、現在公表している業績見通しは維持することといたします。今後の事業環境や業績動向を踏まえ、業績予想の修正が必要となった場合には速やかに開示いたします。

中段に記載がありますように、当社は常に難度の高い技術を応用した光学薄膜装置、それからその展開としての新型装置に取り組んでいますけれども、現在の市場は、例えば北米スマートフォンでは、廉価版のスマホはよく売れているようです。ここで申し上げます汎用光学という意味は、まさにそういうことなのです。北米スマートフォンの廉価版のスマホについては、当社の新しい装置の受注にはつながらなかったのですが、間接的に当社のプロセス技術が反映してはいます。そういう最終製品については、現在、市場でかなり成膜メーカーが忙しくなっているのは感じています。したがって、これは時間の経過とともに最高級、一番技術的に難しい最終製品につながる可能性が非常に高いと思われれます。これがいつ受注となって、当社のほうに反映してくるかということです。こういったこともあり、現在は業績見通しについて確定したものをお出しするのがなかなか難し

い状況ですので、現状据え置きということにさせていただきたいと思っています。以上で
ご説明をいたしました。

免責事項・注意事項ならびにお問合せ先



当資料に記載された内容は、2020年8月6日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

【お問合せ先】

E-mail : ir-info@optorun.co.jp

TEL : 03-6635-9487